

*

*

*

今、やるなら、これでしょ！

“Bright Young People”

1920年代初めの英国に出現した、新しい若いグループ・集団を“Bright Young People”といい、そして、その彼ら／彼女らの文化を、総じて、“Bright Young Things”ということは、周知のことであるし、その特徴を、一言で述べるのなら、それは、「貴族的」且つまたセレブ的、であるということも、広く知れ渡っていることでしょう。ここで、おもしろいのは、「貴族的」・セレブ的とは言っても、この若者たちには、お淑やかさは微塵もなく、大量の飲酒をするわ、麻薬も嗜んだり、朝方までどんちゃん騒ぎの「パリピ」の毎日という感じで、ある意味、そこには、大衆・消費文化の醍醐味とその雰囲気、言い換えれば、ハイ・カルチャーとは対照的なポピュラー・カルチャーが、これでもかと言うほど全面に押し出されていて、それゆえに、この点にこそ、この若者たちの文化のおもしろみや歴史的な意味があるのかもしれませんが。でも、この“Bright Young People”とその文化は、1920年代の末には、衰退するとされているようなのだが、はたして、そうなのでしょうか。

一緒に考えて、研究してみませんか。（きっと、楽しいし、おもしろいと思うんだけど。どうかしら？）



“Bottle-and-Pyjama Party” from *Punch* (Vol. CLXXVII, 1929).

*

* 高田研究室（近現代イギリス文学・モダニズム）*

*